

着物のことなら何でも

# 綿幸

わた

こう



大正10年の綿幸外観  
歴史的建造物指定

須坂「蔵の町のきもの屋」

昭和61年「第1回信州須坂町並み景観賞」受賞

信州須坂老舗百年會 加盟店



信州須坂老舗百年會



信州須坂の地で

誠実な商いを大切に…。

江戸時代より、代々須坂の中心地「中町」の現在地で常に変わることなく「誠実な商い」をモットーにお客様から厚い信頼をいただいております。



店内



歴史的建造物指定 奥座敷



1F 蔵のギャラリー 綿幸サロン



2F 蔵の美術館

お手頃価格  
大好評!!

専属のカメラマンが  
撮影します!



## 綿幸 写真スタジオ

卒業・入学・成人式・七五三  
お宮参り・家族写真など

6切3枚組(台紙付)8,000円  
2冊以上ご注文で撮影データ  
DVDプレゼント!



自分で着物が  
着られるように!

## 着付教室

受付中!!

- 隔週 火・木曜日
- 14:00~15:30
- 1回/500円

## きもの お手入れ処

- きもの診断士が常駐
- その場でお見積り!
- 1枚から受付けます!

きもの・帯 レンタル 着付 承ります



# 綿幸で生まれかわる！

## タンスにしまったままの着物ありませんか？

お見積もり・相談無料!!  
専門の着物診断士が  
アドバイスします!

こんなトラブルは早めのお手入れを!  
■きもの全体のうす汚れが気になって…  
■シミ・カビ・汚れがくっきり…!!!

お問い合わせ TEL.026-245-0218

仕立て  
直し

あなたの着物は、  
**大丈夫**  
ですか？



### 黒留袖(柄彩色加工)

特価 20,000円

赤系が多く派手になってしまった留袖を年齢に合わせ彩色し直しました。仕立て上がりそのまま加工しますので費用は安価でできあがります。



### 帯(染め替え加工)

特価 35,000円

袋帯・名古屋帯を地味な色に染め替えることができます。解き、洗い張り、一色染、芯入れ仕立て上がり



※上記は、税別・参考価格です。

### 帯金彩加工

特価 8,000円

どうしても落とせないシミなどには金彩加工をしてシミを隠すことができます。



### 柄足し加工

特価 12,000円(上前身頃のみ修正の場合)

どうしても落とせないシミなどには柄を足してシミを隠すことができます。※全体を修正する場合はお見積もりいたします。



### その他の仕立て直し品目

- 丸洗い
- かび落とし(丸洗いプラス)
- 八掛擦切れ直し
- 単衣裾切れ直し
- 八掛たるみ直し
- 留袖の比翼直し
- 単衣から袷に仕立て替え
- 紋入れ替え
- 身八ツ口、袖付け直し
- 袴の仕立て直し
- 部分寸法直し
- 染め替え(仕立て込)
- 洗い張り(仕立て込)
- 裏地取り替え
- 道行コートに仕立て替え
- 道中着に仕立て替え
- 帯芯入れ替え
- 衿ふき

## リメイク

### 日傘加工

着物や羽織から自分だけの素敵な傘が作れます。



### 丸帯から袋帯加工

丸帯を袋帯2本に作りかえることができます。

解き、カット、裏地、芯入れ仕立て上がり



### 作り帯加工

(袋帯・名古屋帯)  
お太鼓の形が作つてある「作り帯」に直すことができます。

※大切な帯を切らずに加工する方法です。



着物の  
何でも相談!



### 被布コート加工

お手持ちの羽織からかわいい被布コートに加工できます。



### 名古屋帯加工

羽織を素敵な名古屋帯に加工できます。

黒の絵羽織のほか、絞りの羽織や小紋などからも帯に加工できます。解き、洗い張り、芯入れ仕立て上がり



### 私だけのオーダーメイド ひな人形・五月人形

お手持ちの袋帯から自分だけの素敵な「お雛様」や「五月人形」が作れます。袋帯/きもので屏風やタペストリーも制作できます。※納期は約2ヶ月程度。





# 冠婚葬祭

御風呂敷・御結納用品・お宮参り掛衣裳 承り会

九品台付

税別 28,000円 etc



お宮参り、掛衣裳

税別 38,000円 etc

お子様の健やかな  
成長を祈って…

お宮参りは生まれて

男児は 31 日目

女児は 32 日目

が一般的です。



## 振り袖 春の着物準備会

◆ 振り袖



■ 振り袖3点セット

税別 198,000円 etc



◆ 訪問着・付下げ



■ 喪服一式  
お仕立て上がり

[冬物一式]

税別 198,000円 etc

かわいい和小物も  
取りそろえてあります!



■ 留袖・訪問着  
お仕立て上がり

税別 198,000円 etc

創作  
着物

あなただけの  
一点物!

着物や帯をご希望の  
絵柄で創作します!



須坂祇園祭笠鉾行列

夏の着物

for summer wear



平安時代の「湯帷子(ゆかたびら)」が語源とされている。帷子(かたびら)とは麻の単(ひとえ)のこと。今のように、裸で風呂に入る時代になると、風呂上りに着る木綿の衣類を「ゆかた」と呼ぶようになった。やがて、夏のくつろぎ着、あるいは首段階として定着。

秋の着物

for autumn wear



三歳、五歳、七歳の厄払いや子どもの成長と幸せを願い、七五三をお祝する。

三歳で「言葉」、五歳で「知恵」、七歳で「歯」を神から授けるとき、それを感謝する地方もあるという。

このチラシをお持ちください!  
もれなくステキなプレゼントを贈呈!



着物のことなら何でも  
綿幸  
☎026-245-0218

笠鉾行列





# 女きものがたり

日本人の民族衣装としての着物が、いろいろな節目の行事において果たしてきた役割は、現代においても、まだまだ大きいものがあります。改まった衣装を着ることで、祝・寿・喪等の心を、より丁寧に周りの人々に表明出来るからです。

女の一生		着物語り	
<b>出産</b>	この世に生を受ける。	<b>産着</b>	産着は産衣(うぶきぬ)の略。新生児に初めて着せる着物で、昔は麻の葉模様の黄色の布等で作る習慣があったが、現在は白の晒木綿を通し裏に、袷、単などに仕立てる。麻の葉模様は、麻の葉がまっすぐに育つ姿に因んで、子どもの無事成長を願ったことから、赤ちゃん色の産着の柄として人気があった。
<b>お七夜</b>	生まれて7日目の夜に行う。生まれた赤ちゃんに名を付け、社会の一員として仲間を迎える準備と、健やかに育てて行けるようにという願いが込められている。	<b>御祝着</b>	紋は、婚家の家紋を入れる。男の子は黒地に松や鶴の柄の熨斗目(のしめ)模様、女の子は花柄や手鞠などの友禅の着物をはおらせるのが正式。お宮参り初着を七五三の着物に用いる場合の「肩上げ」「腰上げ」は、子どもの成長に合わせて、着物を楽に着られるようにする先人の知恵。
<b>お宮参り</b>	生まれてから、男の子は31日目、女の子は32日目に行うのが一般的。生まれた土地の守り神に健やかな成長と健康をお願いし、氏子の仲間入りを氏神様に認めてもらう。	<b>初節句衣装</b>	地域によっては、普段は白い産着ばかり着ていた赤ちゃんに、色物の着物を着せて祝う「お色直し」という儀式を同時に行うところも。
<b>お食い初め</b>	生まれて100日目後に行う行事が「お食い初め」。乳歯が生え始める頃で、一生懸命食べるのに困らないように食事を食べる仕草をさせる儀式。	<b>初正月衣装</b>	昔から男の子には破魔弓、女の子には羽子板を贈ってお祝いをする。
<b>初節句</b>	赤ちゃんが生まれて初めて迎える「節句」のこと。無病息災を願い、赤ちゃんが健やかに成長することを祈って行う大切な行事。	<b>初誕生衣装</b>	「餅誕生」ともいわれ、今でも餅をついたり、餅を子どもに背負わせる風習が残っている地域もある。
<b>初正月</b>	赤ちゃんが生まれて初めて迎えるお正月のこと。		
<b>初誕生</b>	満1歳の誕生祝い。		
<b>七五三 3歳</b>	その昔、赤ちゃんが誕生すると、男女とも生まれてから7日目に産毛を剃り、3歳になるとそれまで剃っていた髪を伸ばし始めた。この時行われる儀式を「髪置きの祝い」といい、今の3歳のお祝いの元になった。		
<b>七五三 5歳</b>	5歳のお祝いは男の子のみの祝い。これは、5歳になったお祝いに、子どもを基盤の上で昔方に向けて立たせ、左足から袴をはかせる「袴着(はかまぎ)の祝い」という儀式からきている。		
<b>七五三 7歳</b>	女の子の七五三最後のお祝い。元は「帯解きの祝い」といって、それまで着ていた着物に付いていた付紐を取り、初めて大人と同じように帯を締める儀式に由来している。		
<b>十三参り 13歳</b>	満12歳(数えて13歳)の年に大人の仲間入りを祝う。		
<b>厄払い 19歳</b>	19の厄払いで、娘に喪服を作る。	<b>喪服</b>	紋付き着物を「着る」だけではなく、家紋・女紋付きの着物を子どもに作ってやることで、両親は子どもを一人前の大人として認める証となる。最も大切な第一礼装の着物「喪服」を誂える。
<b>成人式</b>	成人式が現在のスタイルでセレモニーとして全国各地で開催されるようになったのは、昭和20年代頃から。	<b>振袖</b>	もともと振袖の長い袖には「厄をはらい、清める儀式」に通じる意味がある。幸せを願う祈りを込めてまとう振袖は、人生の門出の日にふさわしい第一礼装。
<b>結婚式</b>	挙式に「白無垢」を着るのは、「邪気を払う」「神聖な儀式に挑む」という意味が込められている。	<b>婚礼衣装</b>	白無垢…江戸時代から現在に至るまで、最高の格式をもった婚礼衣装。打掛け、掛下、帯、草履ですべて白。「色打掛」…白無垢と並ぶ婚礼衣装で、地紋の入った色地に、鶴亀や松竹梅などの吉祥文様が、金糸・銀糸の刺繍、織や染、箔などの技法で施されている。「引き振袖」…未婚女性の第一礼装の中でも、最も袖丈の長いもので、「本振袖」また、「お引きずり」という呼び名もあり、正式な式服とされている。
<b>葬儀</b>	喪服は凶服ともいわれ、父母・妻、親戚等の「忌服」の間は、喪服を着ることが定められていた。	<b>喪服</b>	通夜には喪主や遺族も正式喪服ではなく、略式で行う。女性の和装の場合は、黒無地で地味な無地のものに。

結婚・出産を機に、お七夜、お宮参り、お食い初め、初節句、初正月、初誕生、七五三など、自分がしてもらったお祝いを、今度は親として、自分の子どもにしてあげる立場になる。

子どもの入園入学 訪問着・色無地  
子どもの結婚式 黒留袖

親戚の結婚式 黒留袖・色留袖  
知人の結婚式 訪問着・振袖(未婚者)

仲人 黒留袖



綿幸は八十二銀行須坂支店前です。